

会議結果報告書

以下のとおり会議を開催しましたので、その結果を報告いたします。

件 名	令和3年度 南島原市まち・ひと・しごと創生検討会議（第1回）	
日 時	令和3年8月10日（火）午後1時00分から午後3時05分まで	
場 所	西有家庁舎3階大会議室	
出席者	委 員	14名
	市・事務局	米田財政課長、隈部政策班長、齊宮主事
欠席委員	1名	
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 市長あいさつ 3 委嘱状交付 4 会長挨拶 5 概要説明（組織、会議等） 6 議 事 <ol style="list-style-type: none"> （1）南島原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策、 交付金事業の成果検証について <ul style="list-style-type: none"> - 交付金事業の取組実績 - 評価指標等の実績報告 （2）持続可能な地域社会の構築に向けた取り組みについて <ul style="list-style-type: none"> - 「SDGsPT」及び「地方へのひとの流れの創出」、「行政デジタル化」、「脱炭素化」の取組に関する意見等の拝聞 5 その他（意見交換、事務連絡） 6 閉 会 	
会議資料	資料1 交付金事業実施調書 資料2 交付金事業実績一覧 資料3 総合戦略評価指標（目標）一覧 資料4 総合戦略における重点施策 資料5 持続可能な地域社会の構築に向けた取り組み	
協議結果等	次頁以降記載のとおり	

議事（１）南島原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策、交付金事業の成果検証について

－ 交付金事業の取組実績と今後の方針（交付金事業の効果検証）

- 地方創生交付金事業（R2）の成果検証にあたり、事業の内容や成果等について各委員に意見聴取するため、資料①の内容を説明した。（資料②は参考配布。）
 資料① 令和2年度地方創生推進交付金を活用した6事業について、事業内容や取組実績、今後の方針等をまとめた。
 資料② これまでに地方創生交付金を活用した事業（事業費、交付額）を一覧としてまとめた。
- 資料や説明を踏まえ、各委員から意見聴取をした。

発言者	発言内容
委員	ミナコインについてお金がどのくらい動いているか、どこかの段階ででてくるのか。金額の目標設定も必要だと思う。
委員	利用されている店舗が飲食店やスーパーに偏っているなど、課題が見えてきたのではないかと思う。
山口会長	昨年の2月に開始したということで、市民の皆様には周知が十分できていないところがある。今後分析を行い、またキャンペーン等も行い、市民への周知、利用拡大につなげていきたいと考えている。
委員	決済以外にポイントを貯める方法は、何か考えているか。
山口会長	当座は、健康づくりポイント事業に活用できないかと考え、担当課で調整している。方法としては、QRコードを活用して、その場で付与するようなかたちを考えている。 また、ミナコインによる税金の納付については、今年中にできるように仕組みづくりを進めていると聞いている。 市民の皆様には定着するよう、関係各課で調整を進めているところである。
委員	移住者82人のうち、生産年齢人口はどれくらいか教えてほしい。
事務局	20代～50代が56名である。
委員	移住者向け住宅確保加速支援事業は、移住者にとって追い風になると思うが、担当課でどのタイプの空き家がどこに何件あるかなど、データの蓄積や対外的な発信などを行っているのか。
山口会長	空き家が市内に約1,000軒程度あるが、利用可能な空き家は300軒程度ではないかと聞いている。
委員	仏壇等があるので貸したくないという人がいると思うが、五島市では自治会長などの地域住民に仲介に入ってもらうことで、安心感が生まれ、空き家の活用が進んでいるといった話を聞いたので、自治会等を巻き込んでどうか。

委員	<p>入居可能な空き家を有効活用するために、1～2週間滞在する滞在型民泊に取り組んでほしいと考えている。</p> <p>空き家に関連してサイクリングロードは、地元住民の利便性向上もあるが、旅行者に南島原市のよさを知ってもらう機会が増えることになると思うので、PRを進めていったらよいと思う。</p>
委員	<p>移住に関連して、生産年齢人口のことを考えると、インターネット環境をよくしないといけない。</p>
山口会長	<p>年度内に市内全域で光回線によるインターネット環境が整うので、今の状況は解消するのではないかと思う。</p>
委員	<p>新聞などで取り上げられているが、雲仙市の小浜町は若い方が多く移住されている。もともとのきっかけは、デザイナーの城谷耕生さんを若い人が慕って、事務所兼カフェの刈水庵で働き、やがて小浜でデザイン事務所や飲食店を開業するという人がでてきたと聞いている。</p> <p>温泉があるなど小浜の環境もあると思うが、そういった移住の先輩がいると集まってくるという要素もあると聞いたので、そういう方がいれば連携する、また行政区は違うが雲仙市など半島一体で取り組むことを検討したらどうか。</p>
委員	<p>空き家のHPを大学生の子どもに見せたが、見栄えが悪い、リノベーションをしないと住めないと言っていた。</p> <p>他地域をみると、1キロ圏内に医療・福祉など全部揃っている。まずは、居住環境を整えないと移住は難しいと思う。2拠点生活、都市圏の人が週末住むような方向で進めていったほうが現実的だと思う。</p> <p>移住まで考えると、雇用の場の確保が絶対必要である。例えば、とある梨農家さんが収益性はあるが後継者がいないと言われていた。だから、若い人にそういった仕事をやってもらい、空き家に住んでもらうといった施策を考えたらどうかと思う。</p>
山口会長	<p>市内の住環境については、全体的に物件が少ない、不動産屋さんが少ないなどの条件もあり、いい物件があっても見つけれないこともある。そういうこともあり、空き家バンクをつくっているが、なかなか満たされていないのが現状。</p> <p>市HPも含めて、よりよい居住環境整備の検討を進めていきたい。</p>
委員	<p>東彼杵町で20軒程度の空き家を活用し、そこで商売をしてもらい、新しいまちづくりに取り組まれている方の話を聞いたが、まずは、まちの価値づくりに取り組んだと言われていた。</p> <p>また、定住する前にお試しで一回住んでもらうような、前のステップをいれたら移住者が増えたと言われていた。本市でもワンステップ挟むことで、移住者の拡大につながると思う。</p>
山口会長	<p>市にもお試し住宅が1軒ある。また、先ほど委員が言われたように、長期滞在型のお試し民泊のような仕組みができれば、実際の生活環境を感じてもらえるので、スムーズな移住につながるのではないかと思う。そういったことも含めて検討していきたい。</p>

委員	<p>南方面の町は、港町として栄え、出稼ぎで船に乗ってお金を稼いで生活されていた。そういう中で、子どもが成人となり年金もそこそこもらえるので、今のままでは困らないという人も多い。にぎやかになるのもいいが、それよりも落ち着いた環境でゆっくり生活したいという人が南目は多いと思う。</p> <p>そうではなく、若い人たちのために過疎にならないように、我々がまちづくりを進めていかないといけないと言っているが、人口減少に対する関心が低いように思われる。</p>
山口会長	<p>実際、人口減少が進んでいるのは、南有馬から加津佐にかけてであり、高齢化率も同様である。</p>

総合的所見	<p>各事業の今後の方向性は、所管課の意向のとおりとする。</p>
-------	-----------------------------------

議事（１）南島原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策、交付金事業の成果検証
について

－ 総合戦略施策の評価指標等の実績報告

- 総合戦略に基づく施策及び総合戦略全体の成果検証にあたり、施策の成果等について各委員に意見聴取するため、資料③の内容を説明した。（資料④は参考配布）
資料③ 総合戦略に記載している評価指標（基本目標、重点業績評価指標）について、目標と実績（達成状況）を一覧としてまとめた。
資料④ 人口減少対策を一体的・集中的に実施するために、令和２年度に作成した総合戦略における重点施策（雇用拡大、定住移住の促進に資する施策）。
- 資料や説明を踏まえ、各委員から意見聴取をした。

発言者	発言内容
委員	<p>そうめんの出荷額が横ばいとの話だったが、需要と供給のところ、マッチングができていないのではないかと。そうめん業が主要産業なので、人材を獲得できる仕組み作りに取り組んでいただけたらと思う。県内の大学生に向けた説明会の開催や有償インターンシップを行うなどにより、地域を詳しく知らなかった学生が就職することもあるので、主要産業のインターンシップの導入やマッチング機会の創出、魅力づくりを進めることで解決するのではないかと。</p>
山口会長	<p>市としても、市内企業でのインターンシップを推進しているところではあるが、募集をかけても応募していただけない。もう少し大学との連携を強化すると、インターンシップも盛んになると思うので、大学の先生方と相談しながら進めていければと思う。</p> <p>後継者の問題については、昨年度も10件程度減っている。行政としてどうやってフォローしていくかが、今後の課題である。新たなる受け皿となる組織をつくるなどの検討を進めているところである。</p>
委員	<p>そうめんの業ごもり需要について補足説明すると、秋に生産量を決定するので、コロナ需要を読み切れない。南島原市だけではなく、全国的に同じ状況なのではないかと思う。</p> <p>一点お願いだが、事業計画書を提出してもらい、事業拡大できそうな事業者に補助金等を投入してほしい。地元産小麦でそうめん製造に取り組んでいる団体から話を聞くと、なかなか協力を得られないと言われていた。なぜなら組合から脱退して自分たちでやっているから。市ではなかなか介入が難しいと思うが、そこを打破して新しいものをつくっていかないと更に厳しくなると思う。</p>
山口会長	<p>2つの大きな組合があって、本市のそうめん業界を牽引していただいているが、若い人たちは垣根を越えて頑張っていただいている。</p> <p>市としても、組合に囚われない認証マーク制度をつくり、現在約8割の事業者がとられている。まずは認証マークをとっていただき、市全体のそうめんを一定程度以上の品質にしたいと考えており、認証マークをとられた方を全面的に支援していこうと考えている。</p>

委員	小豆島で生そうめんを食べたがおいしかった。南島原市でもつくったらどうか。
委員	生そうめんを製造するには、専用の設備等が必要であるため、流通が少ない。
山口会長	日持ちがしない。現在、冷凍や生で提供している事業者が数件ある。
委員	<p>仕事を次の世代につなげていくためには、人を確保することが一番大事だと思う。</p> <p>コロナ禍で学生を応援するために、ふるさと支え愛プロジェクトを実施され、地元を出た学生と繋がりができたはずなので、そのチャンスを見逃す手はないと思う。</p> <p>その繋がりを活用して、市でこんなインターンシップをやっていますよ、などをどんどん発信していったらどうか。県内の大学でも他地域から来た学生さんが多いと思うが、他地域の人に南島原市の仕事紹介をしても、どうしても都会に目がいたりすると思う。</p> <p>地元愛が生まれた時がチャンスだと思う。</p> <p>今やっている事業の次の展開を考えるなど、一つの事業で2つ・3つもいいことがあるみたいなことを考えて動けたらよいと思う。</p>
山口会長	ご提案ありがとうございます。早速、担当にその旨伝えたいと思う。
委員	<p>関東ブロックの高校の同窓会があり参加していたが、各市の市長が来たり、地元の特産品の販売等が行われていた。</p> <p>田舎暮らしの良い点を伝えるなど、背中を押してあげることで地元に戻ってくる人もいると思う。ぜひ、そういった機会を活用して市への移住拡大を進めたらいいと思う。</p> <p>原城が世界遺産になる前は、近くに駐車場があって民泊に来ていた学生達を案内していた。現在は、真砂経由でシャトルバスを使って行く必要があり案内が難しい。せっかくPRができる機会なのに、大きな損失だと思う。難しい問題だと思うが、駐車場をなんとか確保できないかと思う。</p> <p>他所から多くの人を呼ぶためには、受入体制が非常に重要だと思う。</p> <p>有馬キリシタン遺産記念館、西望記念館、アートビレッジシラキノ、アートビレッジシラキノ近くに設置予定のマリア観音像は、メモリアルゾーン（トライアングル）になると思う。観光振興においても、地元生徒のふるさと学習にも活用できると思うので、整備を進めお客を呼べるような受入体制を整えると、人口は減っても、他所から来るお客さんがたくさんいるような状況になると思う。</p>

山口会長	<p>関東の島原半島同窓会などには、市長も出席するので今のお話を踏まえて、チラシやパンフレット等を作成し、配布することも一つの策ではないかと思うので、参考にさせていただきたい。</p> <p>原城の駐車場については、県や文化庁などと協議をしているが、なかなか風穴を開けられない。一番の課題は、全体的な発掘調査ができていないことである。全体的にこういったものがあるのかを確認し、駐車場の整備を早く進めれないかと担当部局と話している。ただ、面積も広く、発掘調査に時間がかかるため、なかなか進んでいないのが現状である。</p>
委員	<p>駐車場の整備には時間がかかるのがわかっているので、原城跡、有馬キリシタン遺産記念館、西望記念館、アートビレッジシラキノ等を結んだルートをつくった時に、観光客をどのようなルートで、どうやって満足させて帰らせるのかと考えると、シャトルバスがコロナの影響で団体に乗ることができなくなったから、短時間で回するには何かしらの乗り物が必要になる。</p> <p>例えば、行政で乗り物を調達するのが金銭的に難しいのであれば、業者と連携して整備するなど、方法はあると思う。</p> <p>観光客をどう満足させるかといったことからモノゴトを考えると、自ずと必要なものが見えてくると思う。</p>
委員	<p>五島で電気自動車を活用して世界遺産を回る取組が行われていたと思うので、電気バイクなどを活用し民間と行政が連携して、モデル地区にするような仕組みの中で導入するののも一つの手であると思う。</p> <p>小回りがきいて、環境負荷が低く低炭素社会の実現に資する取り組みであれば、市のアピールにもなると思う。</p>
山口会長	<p>国の動向を踏まえ、本市も近いうちにカーボンニュートラル宣言を行いたいと考えている。そういった取組みの一環として、電気自動車の導入等の検討を進めていくこととしている。</p>
委員	<p>南島原市に来て驚いたのは、農業がすごいこと。産地直送の通販サイト「食べチョク」との連携の経緯を伺いたい。</p>
山口会長	<p>シティプロモーション推進事業の一環として、提案があって事業にとりかかったところである。</p>
委員	<p>生産者さんはいいものをつくられているが、販路をもっていないことが課題であったと思う。そこをマッチングさせる取組みであるので注目している。</p>

議事（２）持続可能な地域社会の構築に向けた取り組みについて	
<p>●人口減少社会においても、将来にわたり市民生活の安心と安全を確保するための取り組みについて、資料⑤の内容を説明した。</p> <p>資料⑤ 本市の現状、SDGs の関係性、国の動向などを資料としてまとめた。</p> <p>●資料や説明を踏まえ、各委員から意見聴取をした。</p>	
発言者	発言内容
委員	<p>南島原市で地域実習やインターシップ等を行い、就職したいという希望はあるが給料表を見て諦める学生が多い。一定の給料が支払われるよう企業への働きかけや支援などを行い、コントロールしていかないと、魅力があっても移住しない。不便でも素敵なところはたくさんあるので、家族を養えるぐらいの給料をもらえるかが重要となる。</p> <p>DXについては、市役所も地域も変化のスピードについていく必要がある。そういうことを考えると人材育成に取り組む必要があり、ミナサボ等と連携して、高齢者や生産年齢人口（15歳～64歳）の方が学べる機会を提供すると、デジタル化が進むと思う。</p> <p>ふるさと学習のDX化も進めて、最先端で取り組めたらよいと思う。</p>
山口会長	<p>基本的収入がないと将来設計などができないので、非常に大事だと思う。18～20万円ぐらいを支給できるような仕組みづくりをしないといけないと思う。</p>
委員	<p>光回線によるインターネット回線が本市全域に整備されるという話があったが、他の地域で当たり前につながっている状況によやく追いつくかたちであるので、特区として5G等を誘致して、5Gの先進地として企業に興味を持ってもらうような、追いつくのではなく一歩先に手を出してもいいのではないかと思う。</p>
山口会長	<p>近い将来本市にも5Gが整備されると思う。行政として先を見越して、取り組んでいく必要があると思う。</p>
委員	<p>農業分野の脱炭素化が気になっている。南島原市の農業人口の半分以上が55歳以上であり、そういった人は現実的に2050年のことを考えにくいと思う。若い農業者が脱炭素化を考えていかないといけないので、方向性等を早めに示していただきたい。</p> <p>また、スマート農業シティ南島原市のような、デジタル技術を活用した新たな農業に取り組めるような政策を考えていただけたらと思う。</p>
山口会長	<p>たくさんの意見を出していただきありがとうございました。</p> <p>いただいた意見を参考にして、また改善できることは改善しながら、市の行政に活かしていきたい。</p>

その他
<p>●国の動向を踏まえ、行政のデジタル化や脱炭素化等の取り組みについて、検討の進捗状況によっては今年度中に総合戦略へ反映する。（文言などについて事務局に一任し、結果は総合戦略の改定版の送付により各委員へ報告する。）</p>
閉会